

現業協だより No.11

福島県職員連合労働組合現業協議会 2020. 7. 17

春闘要求書を提出！！

現業協議会は6月1日(月)人事総室に対して人員に関する要求書を提出しました。併せて、労使交渉に関する考え方や今後のあり方について、申し入れを実施し人事総室担当者との簡単な意見交換を行いました。

その中ですでに年間計画が決まっており、さらには新型コロナウイルス対応で県職労本部との交渉も進んでおらず、人員に関する要求書について、現業協との交渉は非常に厳しいという話になりました。

現業協からは状況は理解できるが、今、職場では多くの問題が起きている。今だからこそ交渉をやるべき。法律に基づいた交渉である。と強く訴えました。

引き続き、早急な交渉実現に向けて県職労本部と連携して取り組んでいきます。

2020年役員体制

| | | | |
|-----|------|-------|------|
| 会 長 | 田中光一 | 副会長 | 草野浩一 |
| 副会長 | 菅野人司 | 事務局長 | 小林祐一 |
| 〃 | 小林 淳 | 事務局次長 | 二瓶正則 |

第3回四役会議を開催！

6月19日(金)郡山合同庁舎において四役会議を開催しました。県職連合本部から大内書記長、國分書記が参加し、春闘要求書提出後の状況報告とこれからの取り組みについて協議をしました。

四役からは、技能労務職員の採用辞退や早期退職が続いており、制度や職場環境に問題がある。県当局に対して抜本的な見直しや検証を訴える必要があり、早急な交渉実現を望む意見が出されました。引き続き人事総室に対して大内書記長が交渉の開催に向けた呼びかけを行うことを確認しました。

さらには、今後の取り組みについて慎重に協議しました。

まだまだコロナウイルスの終息が見えないものの、新しい生活スタイルを取り入れながら、少しずつ通常生活に戻っている状況を鑑み、組合員のみなさんが安心して参加できるような対策を十分講じ、常任委員会・現業協大会を開催することを確認しました。

- ①参加者のマスク着用を徹底
- ②参加者同士の距離が密にならないように大き目の会場を選定
- ③手指消毒液の配置

最後に、各支部現業協の体制構築に向けた取り組みを確認しました。

農場管理員3名・動物管理員2名採用試験が実施されます！！

2021年4月1日採用(本年度中採用もあり)の農場・動物管理員の採用試験が8月21日(金)に開催されます。現場では、優秀な若手を必要としていますので、お知り合いがいましたら、受験していただくようにお声かけをしてください。給与面については、非常に低く抑えられたものになっていますので、これからの交渉で改善できるようにしたいと考えます。みなさんのご協力をお願いします。

裏面につづく↓

職場に問題はありますか？

新型コロナウイルスの影響により、ほとんどの組合活動が中止になっています。

しかし職場では様々な問題が起きていると思います。何か問題等がありましたら、現業協四役・常任委員・各支部・本部などにご連絡をください。

また、各支部現業協体制の構築のためご協力をお願いします。組合員のみなさんが何を思っているか？現業協はどんな方針で動いているのか？もっとこうするべきだ！見えるための重要な体制です。常任委員のみなさんにご協力のうえ、組織強化・運動強化にむけたご協力をお願いします。

新型コロナウイルス関連業務での問題点

日本中を恐怖に陥れ、多くの犠牲と甚大な経済損失を与えた、新型コロナウイルス。医療現場で危険を顧みず治療に従事している医療関係者や保健所職員のみなさん、生活を支える全ての労働者のみなさんに心から感謝申し上げます。

県内の保健所（保健福祉事務所）では採取した検体の搬送や患者の移送業務が増加し、これらの業務を保健所職員が交代で行っています。検体数が多く、一日に何度も検体の搬送を行い、さらには発症者を指定医療機関に移送するなど、精神的、肉体的にきつい業務が続いています。

本来であれば、こういった業務には正規運転手が就き、それぞれの職種の職員は専門的業務を担うべきだと考えます。

また、発症者の移送に使用する県所有の民間委託した救急車のあり方についても、現場で対応する職員へのリスクを減らすためには抜本的な見直しが必要です。

民間委託の大前提は、公務員がやらなくても良いことを、民間の知識を活かして、効率的に安く行うというものです。果たして実際はそうでしょうか？

本当に自分の命を守り、家族を守り、安心して100%の力で県民を守りぬく職場になっていますか？有事の際は、多少の犠牲はやむを得ないと、心のどこかにないですか？

こういった技能労務職員の不足・不在問題は全国的にも発生しており、運転手がない自治体では検体搬送する業者が見つからずに業務に影響が出ています。

新型コロナウイルス対応では、正規技能労務職員の不足・不在により、非現業職員への負担の増加が浮き彫りになりましたが、今、どの職場でも、正規技能労務職員の不足・不在による他の職種職員への負担や、業務の継続性の崩壊、業務の質の低下が見えつつあります。

しかし、そういった問題が表面化しない、声を上げられない職場が増え、それは非常に危険な職場環境だと危惧しています。

これからの時代だからこそ、あらゆる分野に熟知した優秀な技能労務職員が必要です。

東日本大震災から10年。あの反省と教訓を踏まえ、いかなる状況下でも県民を守りぬくことができる、強靱な現場力を再構築し、効率的で質の高い公共サービスの提供を取り戻すように、私たち組合員が中心となり県民のみなさんに訴えていきましょう！！

編集後記

今、現場が軽くなっていると良く聞きます。それは、県民に対して非常に悪い傾向にあると思います。託けかもしませんが、現場で働く技能労務職員を減らし過ぎたことも一因だと思います。技能労務職員の増員。これが、現場主義の推進、現場力の強化に直結します。300名配置を目指します！